



国立国会図書館

冷哉汲立清水記 : 3巻 207-221



ガラス使用



冷哉汲立清水記  
享保  
二冊

207  
221

小倉

寛政  
二年





冷哉汲立清水記叙  
 夫源平の盛衰之蠲半の角亦出觸  
 の争ひ近前也予今視乃海と西海  
 比一毫の室と放く机よ尔幾ふ共血樂  
 屋の安み居く綱の上を各戸を忘るるを  
 輕業すの授志あると欲嗚呼妄言  
 として細童



山東

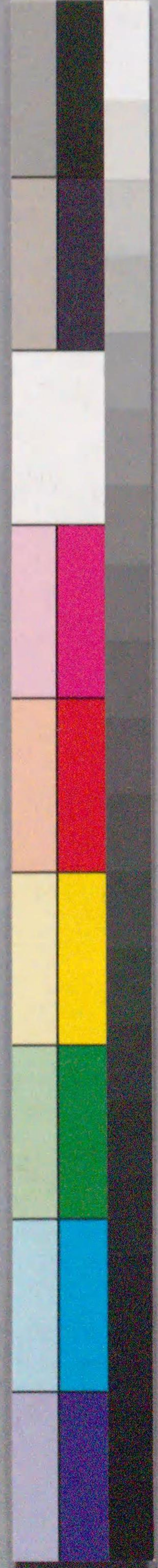
京傳誌







































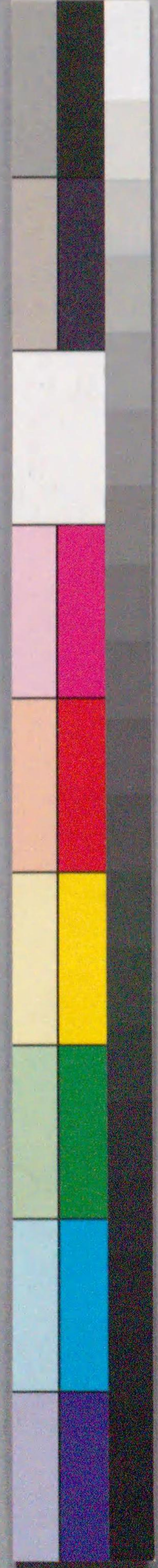
九代のもつり平のさだまさ  
 ことわりあつたもの  
 けしきのちやうとんま  
 ちりすけてあとも  
 ささげしきまうり  
 ぐんぐんききんびを  
 西き入る今まの奴  
 りすすさんし  
 コツをんまうり  
 けしきあつたもの  
 こりしきんちゆうの  
 人まうりてけり  
 すま



九代のもつり平のさだまさ  
 ことわりあつたもの  
 けしきのちやうとんま  
 ちりすけてあとも  
 ささげしきまうり  
 ぐんぐんききんびを  
 西き入る今まの奴  
 りすすさんし  
 コツをんまうり  
 けしきあつたもの  
 こりしきんちゆうの  
 人まうりてけり  
 すま



























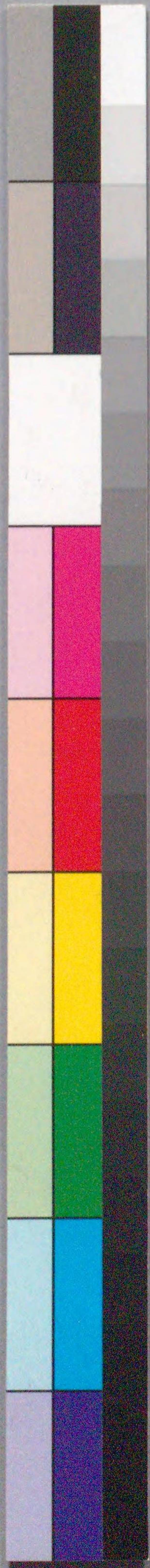


207  
禁  
221

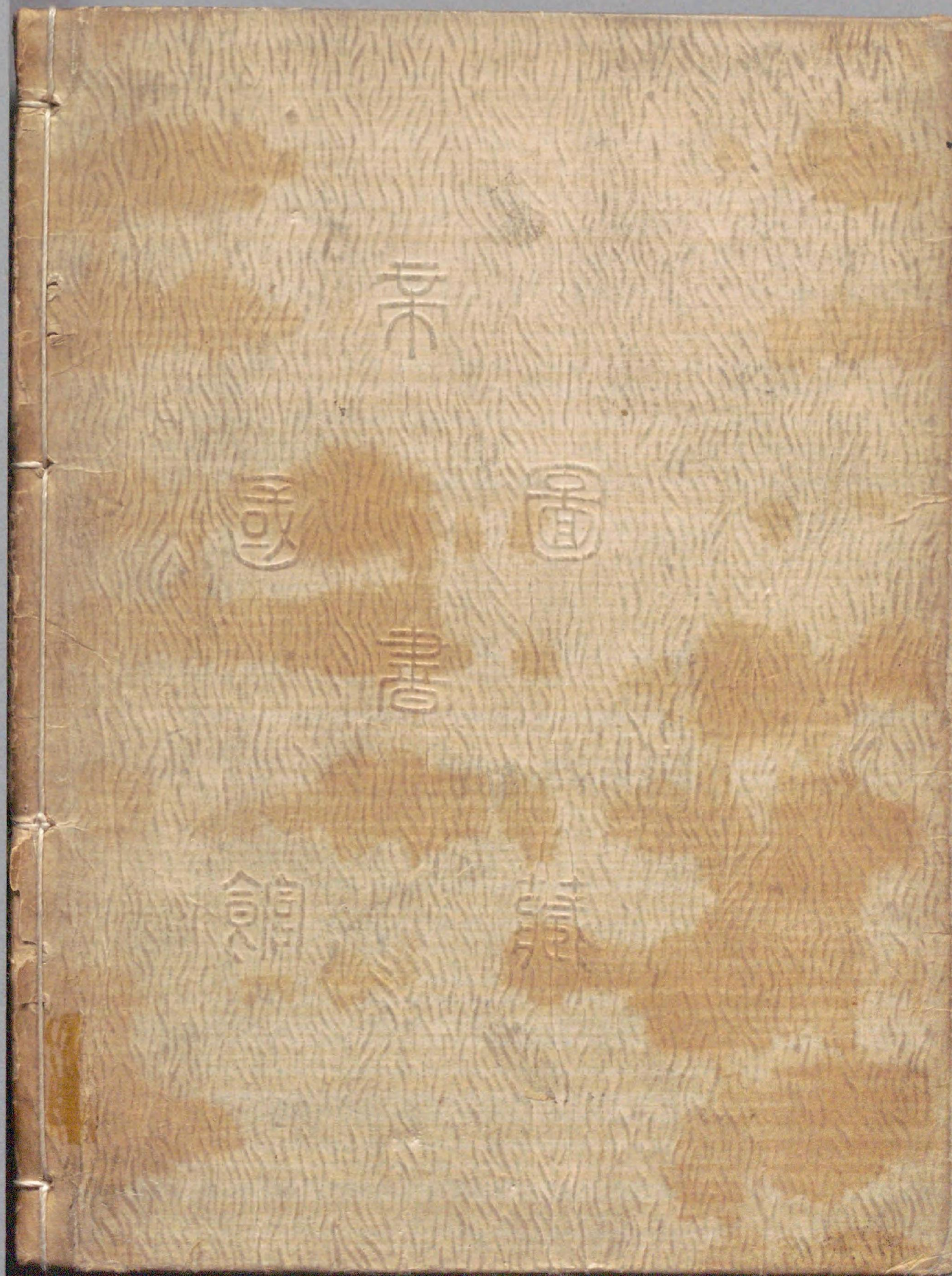
冷哉汲立清水記







国立国会図書館 冷哉汲立清水記 : 3巻 207-221



ガラス使用

